

6. 野鳥公園周辺の現状（平成26年11月現在）

野鳥公園周辺では、自然と人の共生を目指し、公園・緑地の整備や、多様な生物の生息空間に配慮した海岸整備、親水性をもたせた遊歩道整備などを進めています。



＜アイランドシティ中央公園＞



＜香椎浜北公園＞



＜御島崎地区＞



＜海上遊歩道(あいたか橋)＞



＜塩浜地区＞



＜香住ヶ丘地区＞



＜外周緑地＞

II. エコパークゾーンにおけるこれまでの取組みと今後の課題



1. エコパークゾーンとは

エコパークゾーンは、博多湾東部のアイランドシティ周辺の海域や海岸域を含むエリアのことです、約550haの面積を有しています。

「エコパークゾーン整備基本計画(平成9年5月)」の中で、『豊かな生態系を構成する生物を育む場として、自然環境の質的向上を図るとともに、地域の特性を活かした潤いのある生活環境の形成や環境教育の場として利用を行うなど、自然生態を活かした整備を図る』を基本的な方針として位置付けています。

エコパークゾーンは、広大で様々な地域特性を有していることから、ゾーン内の環境特性や歴史性などを考慮し、4つのゾーンに区分しています。



2. エコパークゾーンにおけるこれまでの取組み

ゾーンごとの特性を活かしながら、自然環境保全・創造に向けた取組みを行っています。

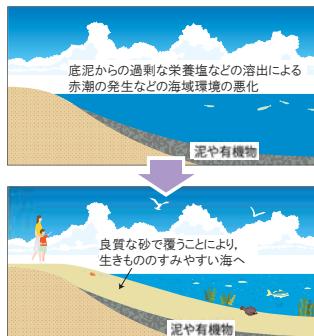
○御島ゾーン 覆砂 15.6ha, 作濬 1.3km, アマモ場造成 2,650m², 海岸整備 1,620m

○香住ヶ丘ゾーン 海岸整備 280m

○和白干渉ゾーン アマモ場造成 5,560m², 海岸整備 1,300m

【覆砂】

海底に堆積した泥を良質な砂で覆うことにより、生きもののすみやすい環境を創出。



【作濬】

海底に水の通り道となる溝(瀬筋)を掘ることにより、海水の交換を促進し、水質や底質を改善。



【アマモ場造成】

アマモは海中に酸素を放出するとともに、魚介類の産卵場や生息場になるなど「海のゆりかご」と言われ、生きもののすみやすい環境を創出。



御島ゾーン

覆砂や作濬、アマモ場造成などの環境保全・創造の取組みの結果、底生生物の種類や個体数等の増加が確認されており、生物の住みやすい環境が保たれています。

また、地元の小学校と連携したアマモ場づくりや、海の生きものに触れる観察会の実施など、市民の環境学習の場としても活用しています。

潮間帯に生息する生きもの等に配慮した護岸整備や、市民が身近に海を感じられる外周緑地や海岸整備など、地域特性を考慮し、周辺の自然環境との調和を図っています。



<覆砂、作濬による水・底質改善>



<アマモに産み付けられたコウイカの卵>



<親水性をもたせた外周緑地>

香住ヶ丘ゾーン

アイランドシティや香住ヶ丘地区の水際では、市民が海に親しんでもらえるよう、階段式の護岸を整備しています。また、アイランドシティにおいては、市民憩いの散策路となるよう、身近に海を感じられる外周緑地の整備や、生きものに配慮した護岸整備を行っています。



<親水性をもたせた外周緑地>



<親水性をもたせた海岸>



<生きものの生息に配慮した護岸>

海の中道ゾーン

砂浜の保全やレクリエーション空間としての保全をする当該ゾーンでは、現在、砂浜が適切に保全され、市民が海に触れあえる良好な景観が形成されています。

毎年、雁の巣海岸をはじめとする多くの海岸で、市民・企業・行政が協力し、ごみを回収する環境美化活動「ラブアース・クリーンアップ」が行われています。